

2020年7月15日 全16頁

緊急事態宣言解除後も厳しさが続く～急減した消費は足元で持ち直しの動き

2020年7月 大和地域AI（地域愛）インデックス

経済調査部

主任研究員

溝端 幹雄

研究員

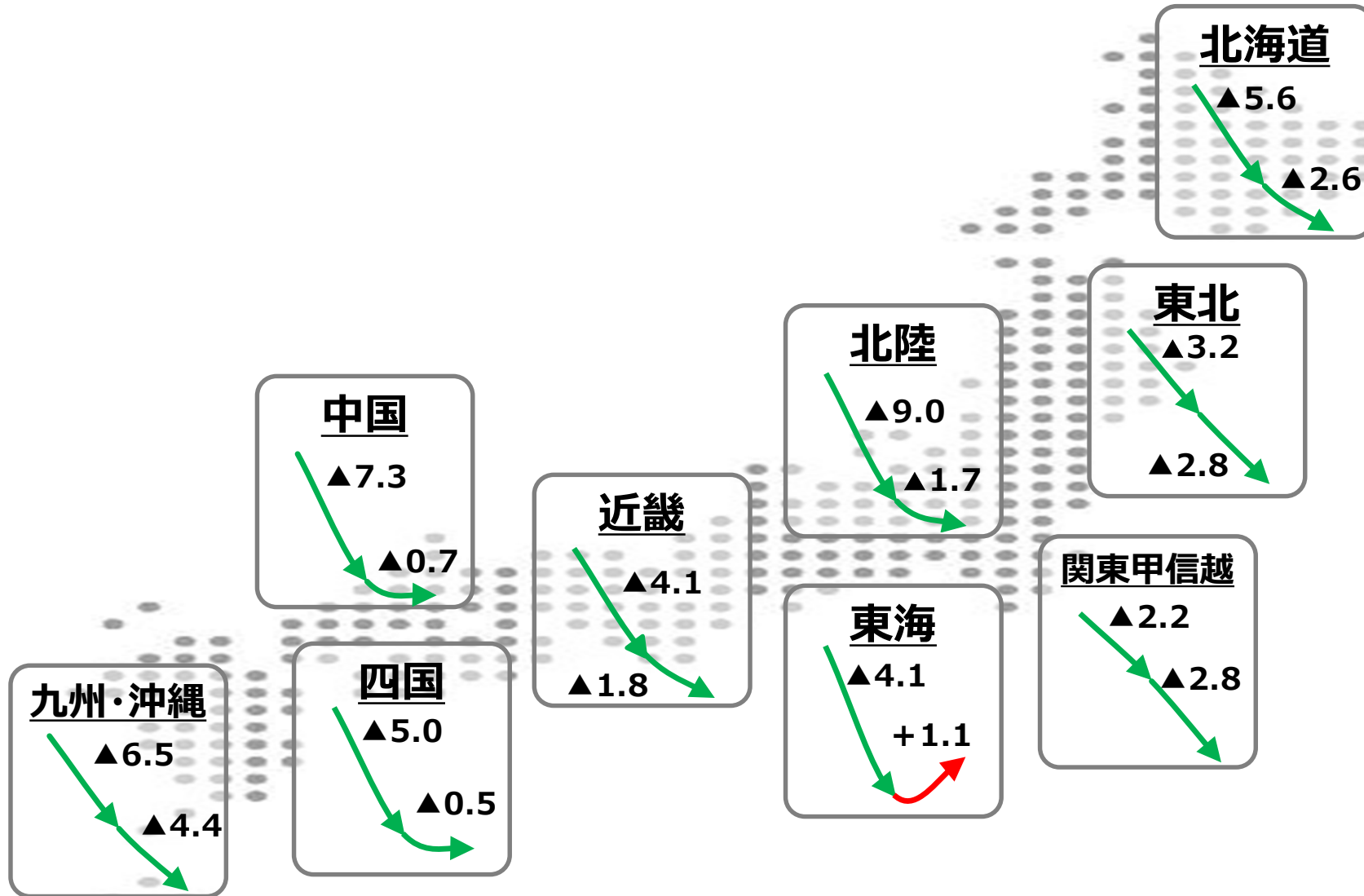
中田 理恵

[要約]

- 2020年7月の大和地域AI（地域愛）インデックスは、8地域で悪化した。一方、生産などの持ち直しで「東海」のみが改善した。
- 分野別に見ると、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた消費関連は、先行き不透明感が強いものの、「九州・沖縄」を除く全ての地域でインデックスは改善した。「北陸」は百貨店・スーパー売上高や乗用車・家電販売、「中国」はスーパー売上高、「東海」もサービス消費で下げ止まりや持ち直しの動きが見られる。しかし、これまで堅調だった雇用・所得環境が全地域で弱めの動きに転じており、住宅投資でも弱い動きが出始めていることから、地域の消費の先行きに関して今後も慎重に見ていく必要がある。企業関連では、大半の地域で生産や設備投資が悪化しており、「近畿」は主に輸送機械関連の生産、「北陸」では生産用機械・金属製品・繊維などの生産や設備投資全般で弱い状況にある。一方、「東海」は中国や北米向け輸出を通じて生産に持ち直しの動きが見られ、設備投資でも産業構造の変革や人手不足等への長期的な対応から、2020年度の設備投資は前年をやや上回る計画。公共投資は新型コロナウイルス感染症の影響は見られず、安定した景気の下支え要因となっている。
- 新型コロナウイルス感染症は全世界に広がりを見せ、国内でも都市圏を中心に再び感染者が増えつつある。一方、休業要請や人の移動の制限などを伴う緊急事態宣言は、特に宿泊・飲食関連の比重が高い地域の経済・社会へのダメージが非常に大きく、今後はいわゆる3密対策を徹底して感染の拡大を抑えつつ、経済・社会活動を維持していく方法を模索することになるだろう。足元は消費に持ち直しの動きが見られるが、緊急事態宣言解除による反動増や特別定額給付金の支給によるもので、本格的な回復には時間がかかりそうだ。今後、世界経済や国内の雇用・所得環境の動向には注意が必要で、「九州・沖縄」等は令和2年7月豪雨の影響も懸念される。
- 緊急事態宣言は解除されたが、地域経済は厳しい状況が続くと見込まれる。一方、リモートワークの普及や手続きの電子化などデジタルトランスフォーメーション（DX）を後押しする状況にもあり、今回を契機として生産性向上にもつなげるDXの本格的な普及が地域でも望まれる。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域AI（地域愛）インデックスのモデル開発はフロンティアテクノロジー部データサイエンスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

大和地域AI(地域愛)インデックスの推移 (20年1月→4月、4月→7月)



(注1) 各地域の数値は、2020年1月から4月の変化幅と4月から7月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（20年4月→7月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲2.6						
東北	▲2.8						
北陸	▲1.7						
関東甲信越	▲2.8						
東海	+1.1						
近畿	▲1.8						
中国	▲0.7						
四国	▲0.5						
九州・沖縄	▲4.4						

（注）さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

（出所）日本銀行資料より大和総研作成

大和地域AI（地域愛）インデックスの変化（20年4月→7月）とポイント

北海道	大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：43.2 → 7月：40.6）。設備投資や生産、輸出などがインデックスを押し下げた。
東北	大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：43.3 → 7月：40.5）。生産や設備投資がインデックスを押し下げた。
北陸	大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：42.1 → 7月：40.4）。消費は持ち直しの動きを受けてプラスに寄与したが、生産、設備投資がインデックスを引き下げた。
関東 甲信越	大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：44.9 → 7月：42.1）。設備投資、輸出における判断の悪化がインデックスを押し下げた。
東海	大和地域AIインデックスは、6四半期ぶりに上昇にした（20年4月：44.5 → 7月：45.6）。自動車関連を中心とした生産や消費の持ち直しの動きを受けてインデックスは上昇した。
近畿	大和地域AIインデックスは、6四半期連続で低下した（20年4月：43.4 → 7月：41.6）。生産、設備投資の判断の悪化がインデックスの主な押し下げ要因となった。
中国	大和地域AIインデックスは、4四半期連続で低下した（20年4月：42.6 → 7月：41.9）。消費が足元下げ止まりつつあるが、生産、住宅投資の判断の悪化がインデックスを下押しした。
四国	大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：42.8 → 7月：42.3）。消費で持ち直しの動きもあるが、生産の判断の悪化がインデックスの主な押し下げ要因となった。
九州・ 沖縄	大和地域AIインデックスは、4四半期連続で低下した（20年4月：44.0 → 7月：39.6）。消費、生産等の判断が悪化しインデックスを引き下げた。

北海道経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：43.2 → 7月：40.6）。
- 設備投資や生産、輸出などがインデックスを押し下げた。
- 6月の短観によると、2020年度設備投資は前年を下回る計画へと下方修正されている。生産は輸送機械、電気機械、紙・パルプなど、輸出は食料品、輸送用機器などで減少している。

大和地域AIインデックスの推移



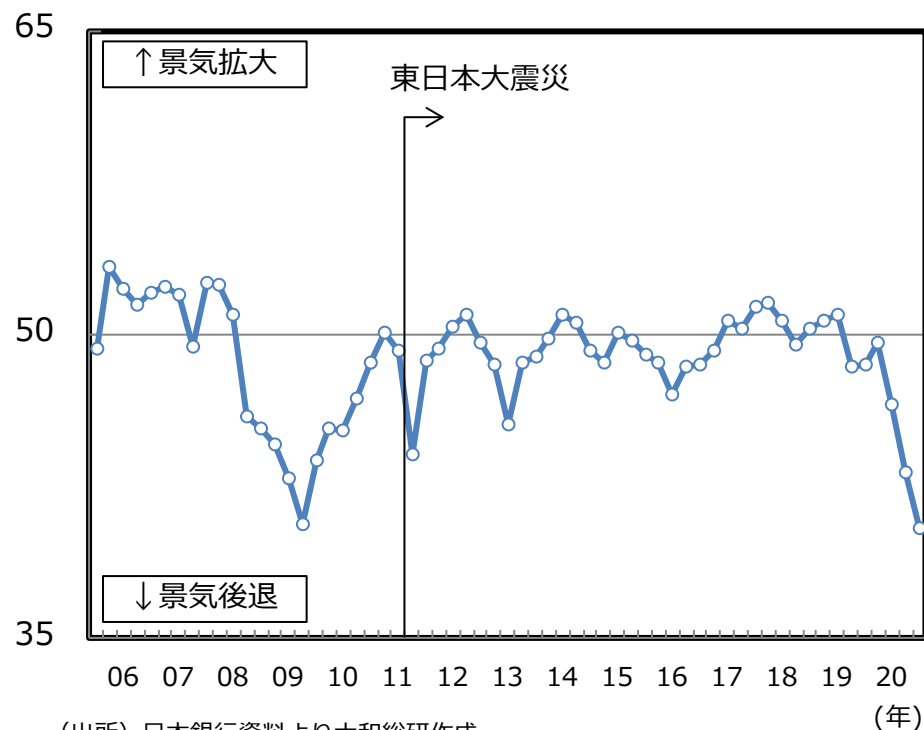
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、下押し圧力の強い状態	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、大幅に悪化
【設備投資】 ↓	
緩やかに増加	弱めの動き
【生産】 ↓	
弱めの動き	減少

東北経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：43.3 → 7月：40.5）。
- 生産や設備投資がインデックスを押し下げた。
- 生産は輸送機械で減少している。設備投資は前年を下回る見込み。新型コロナウイルス感染症の影響で製造業で投資の先送りが生じているほか、非製造業では新規出店等の投資が一服している。

大和地域AIインデックスの推移



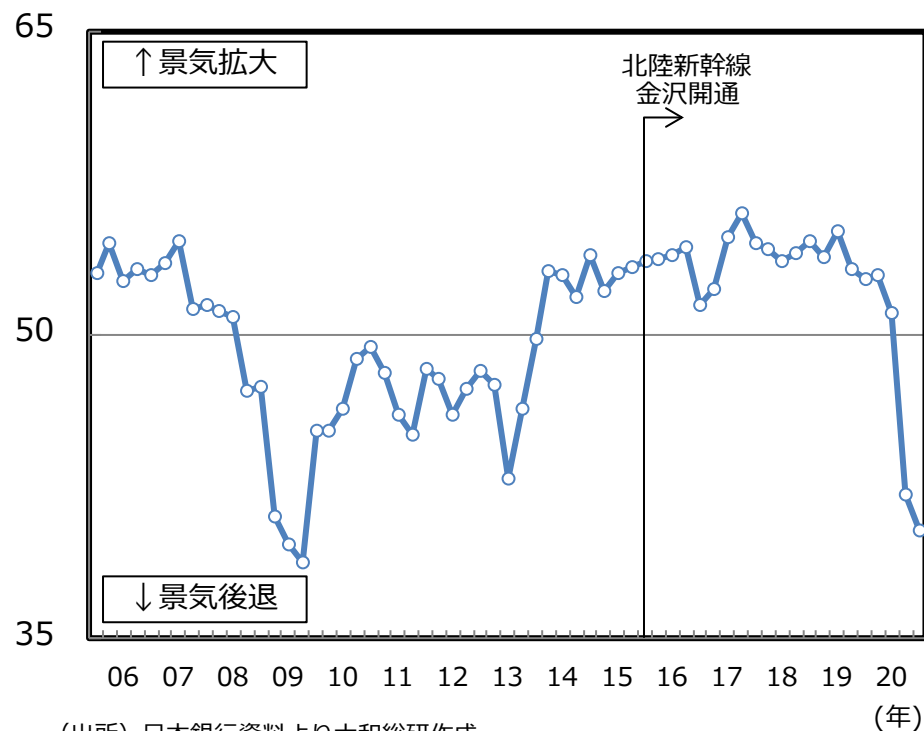
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症の影響などから、このところ弱い動き	新型コロナウイルス感染症の影響などから、悪化
【生産】 ↓	
弱含んでいる	弱い動きとなっている
【設備投資】 ↓	
横ばい圏内の動き	弱めの動き

北陸経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：42.1 → 7月：40.4）。
- 消費は持ち直しの動きを受けてプラスに寄与したが、生産、設備投資がインデックスを引き下げた。
- 百貨店・スーパー等の売上高や家電販売だけでなく、自動車販売にも下げ止まりや持ち直しの兆しが見られる。一方、生産は生産用機械、金属製品、繊維で大幅に減少している。

大和地域AIインデックスの推移



(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

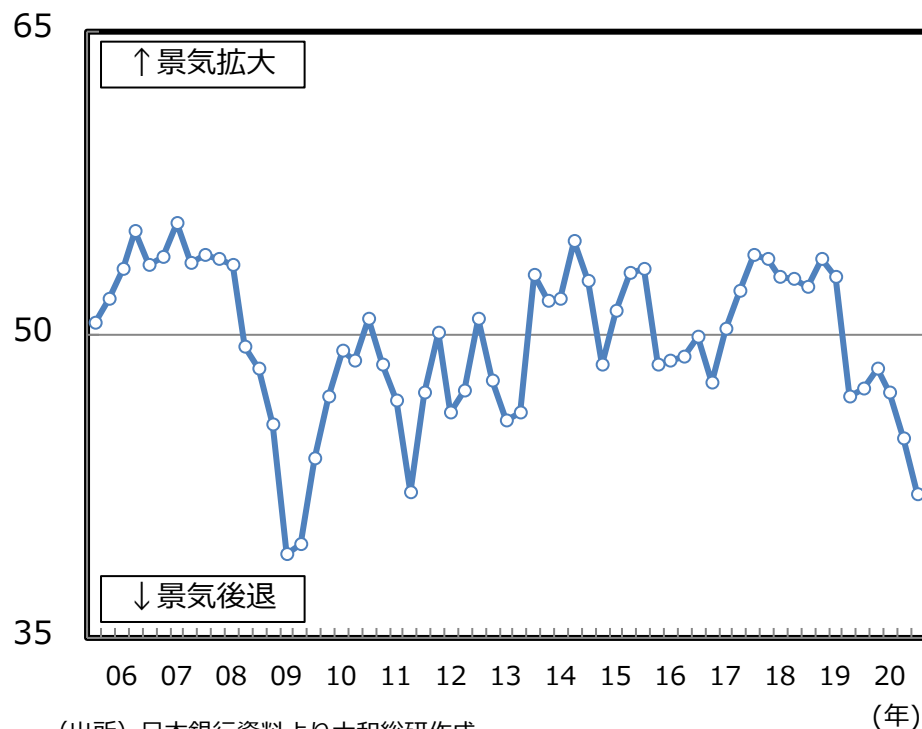
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症の影響などから、弱めの動き	新型コロナウイルス感染症の影響などから、大幅に悪化
【消費】 ↑	
弱めの動き	下げ止まっており、一部に持ち直しの兆しもみられるが、その持続性には不透明感が強い
【生産】 ↓	
弱めの動き	減少

関東甲信越経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：44.9 → 7月：42.1）。
- 設備投資、輸出における判断の悪化がインデックスを押し下げた。
- 総じて見ると不確実性の高まりを受けた投資先送りなどにより設備投資の増勢は鈍化している。一方で、コロナ禍のもとでオンライン対応のためのソフトウェア関連投資を進める動きも一部見られる。

大和地域AIインデックスの推移



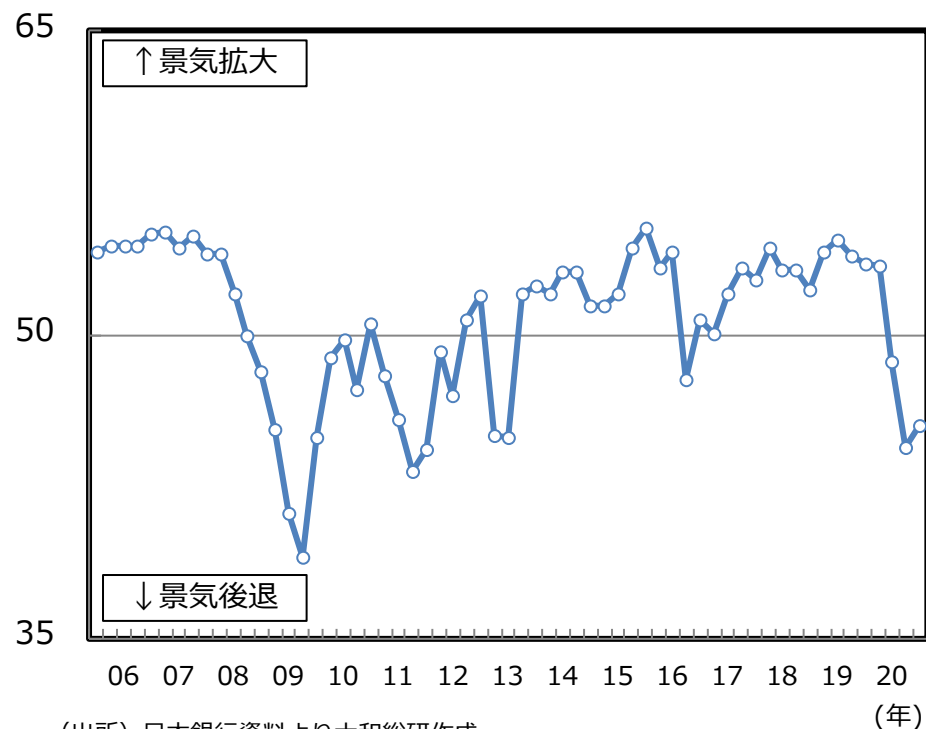
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、このところ弱い動き	内外における新型コロナウイルス感染症の影響により、きわめて厳しい状態
【設備投資】 ↓	
振れを伴いつつも増加	増勢が鈍化
【輸出】 ↓	
弱めの動き	大幅に減少

東海経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、6四半期ぶりに上昇にした（20年4月：44.5 → 7月：45.6）。
- 自動車関連を中心とした生産や消費の持ち直しの動きを受けてインデックスは上昇した。
- 中国や北米向け輸出を通じて生産に持ち直しの動きが見られる。設備投資でも2020年度は前年をやや上回る計画。消費は乗用車販売において大幅な前年割れが続くが、スーパー、ドラッグストア、家電販売は堅調に推移。

大和地域AIインデックスの推移



(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

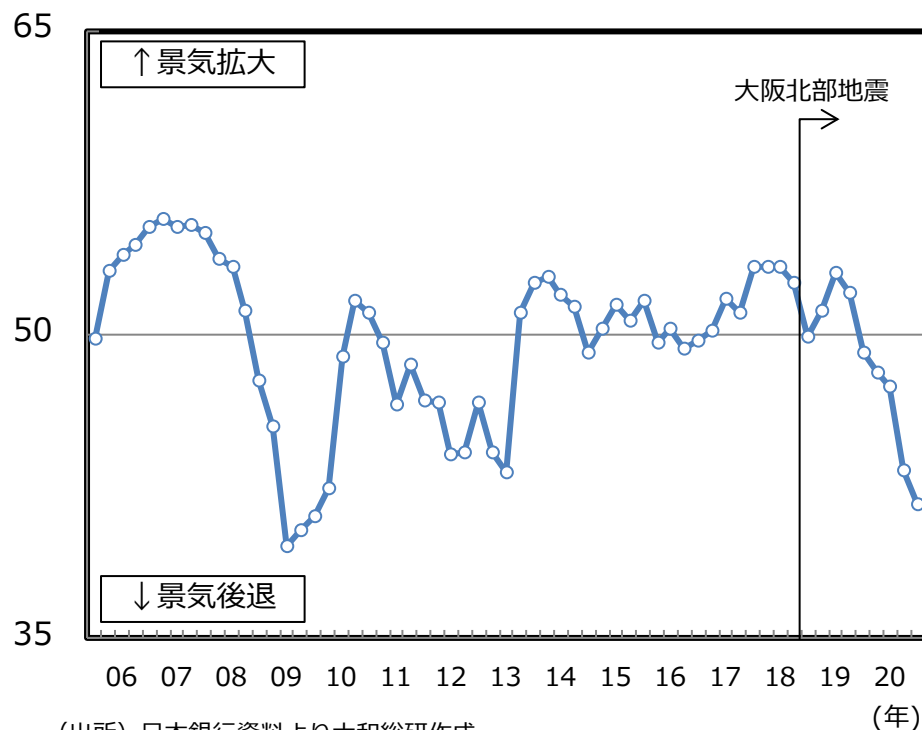
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、下押し圧力の強い状態	改善に向けた動きがみられ始めているが、厳しい状態
【生産】 ↑	
弱めの動きとなっている	弱い動きが続く中、持ち直しの動きもみられている
【消費】 ↑	
サービス消費を中心に弱い動きとなっている	サービス消費を中心に減少したあと、持ち直しの動きがみられている

近畿経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、6四半期連続で低下した（20年4月：43.4 → 7月：41.6）。
- 生産、設備投資の判断の悪化がインデックスの主な押し下げ要因となった。
- 生産は輸送機械関連を中心に幅広い業種で減少。なお、物流拠点向けの自動化・省力化機械の生産（はん用機械）は人手不足の影響もあり堅調に推移しているとの意見も見られた。

大和地域AIインデックスの推移



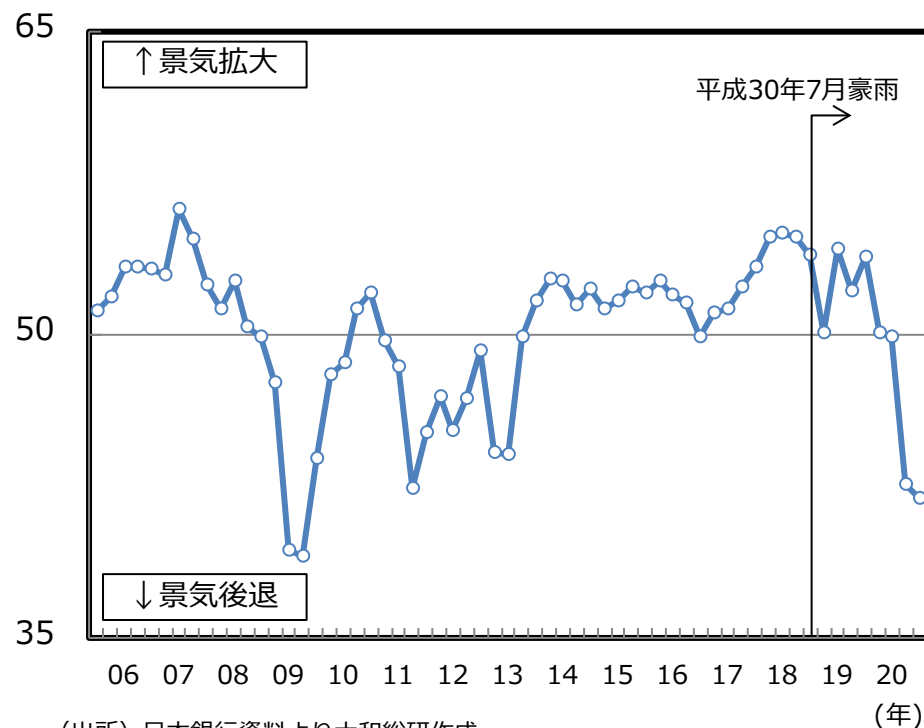
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、悪化した状態が続いている
【生産】 ↓	
弱めの動きに拡がりが見られている	減少している
【設備投資】 ↓	
増加している	増勢が鈍化している

中国経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、4四半期連続で低下した（20年4月：42.6 → 7月：41.9）。
- 消費が足元下げ止まりつつあるが、生産、住宅投資の判断の悪化がインデックスを下押しした。
- 生産は、自動車、鉄鋼で大幅に減少。新型コロナウイルス感染症の影響による受注減少や在庫の積み上がりを受けて当面は生産調整を続けるとの意見が散見された。

大和地域AIインデックスの推移



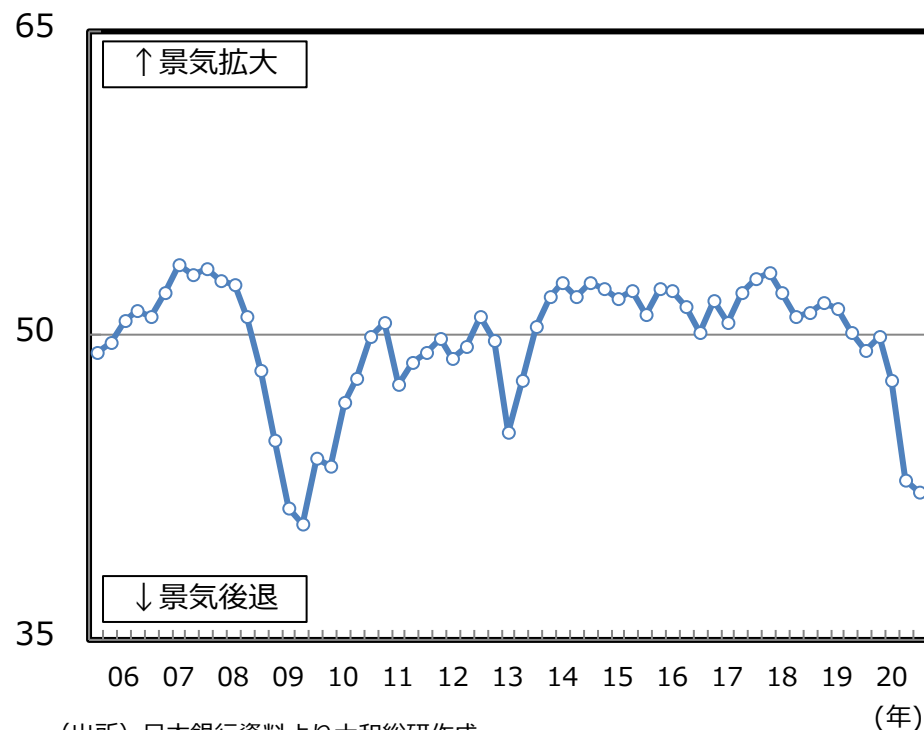
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症などの影響から、このところ弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響から、大幅に悪化したあと、厳しい状態が続いている
【生産】 ↓	
一段と弱い動き	大幅に減少
【住宅投資】 ↓	
横ばい圏内の動き	弱含んでいる

四国経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、3四半期連続で低下した（20年4月：42.8 → 7月：42.3）。
- 消費で持ち直しの動きもあるが、生産の判断の悪化がインデックスの主な押し下げ要因となった。
- 生産は、新型コロナウイルス感染症の拡大による受注減少を背景に汎用・生産用機械や電気機械等が減少。

大和地域AIインデックスの推移



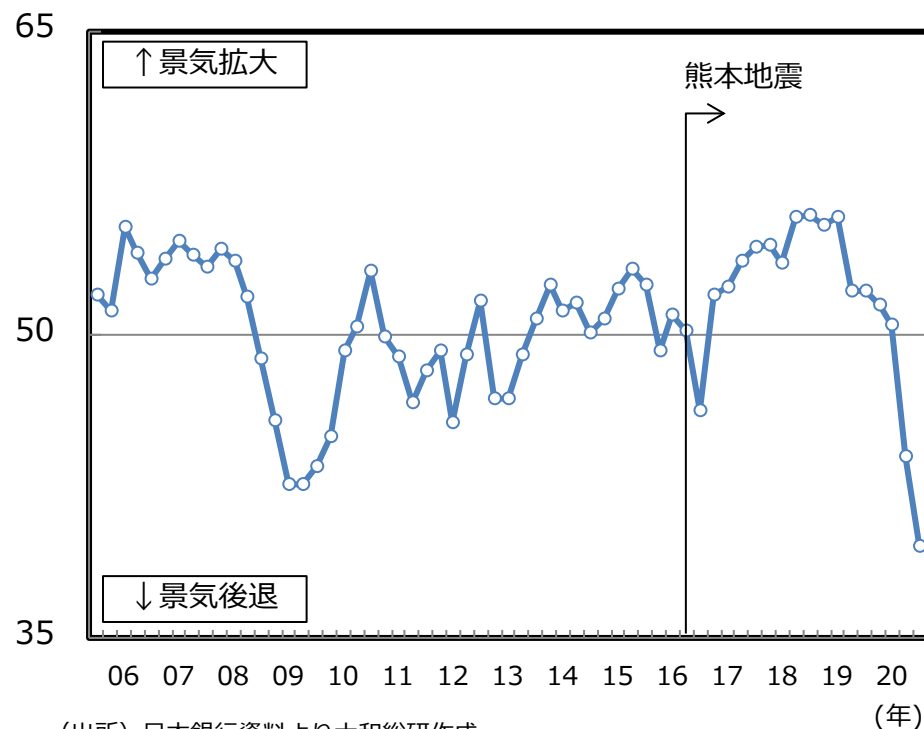
さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症の影響から、このところ弱めの動き	新型コロナウイルス感染症の影響から、一段と弱い動き
【生産】 ↓	
弱めの動きが広がりつつある	一段と弱い動きとなっている
【住宅投資】 →	
弱めの動き	弱めの動き

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域AIインデックスは、4四半期連続で低下した（20年4月：44.0 → 7月：39.6）。
- 消費、生産等の判断が悪化しインデックスを引き下げた。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、自動車や鉄鋼・非鉄金属など幅広い業種で生産が減少。旅行取扱額も国内外ともに大幅に減少しており、今後は令和2年7月豪雨の影響も懸念される。

大和地域AIインデックスの推移



(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

さくらレポートにおける分野別の判断

20年4月	20年7月
【総括判断】 ↓	
新型コロナウイルス感染症などの影響から個人消費や輸出・生産を中心にこのところ弱い動きとなっている	新型コロナウイルス感染症の影響から悪化している
【個人消費】 ↓	
新型コロナウイルス感染症などの影響からこのところ弱い動き	新型コロナウイルス感染症の影響から減少
【生産】 ↓	
このところ減少している	減少している

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現すること**が我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握すること**が必要となる。
- 本レポートの特徴として、**最先端のAIモデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域AIインデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2020年7月9日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域AI(地域愛)インデックスとは？

→ **地域別の景況感を最先端のAIモデルで算出した指数。**

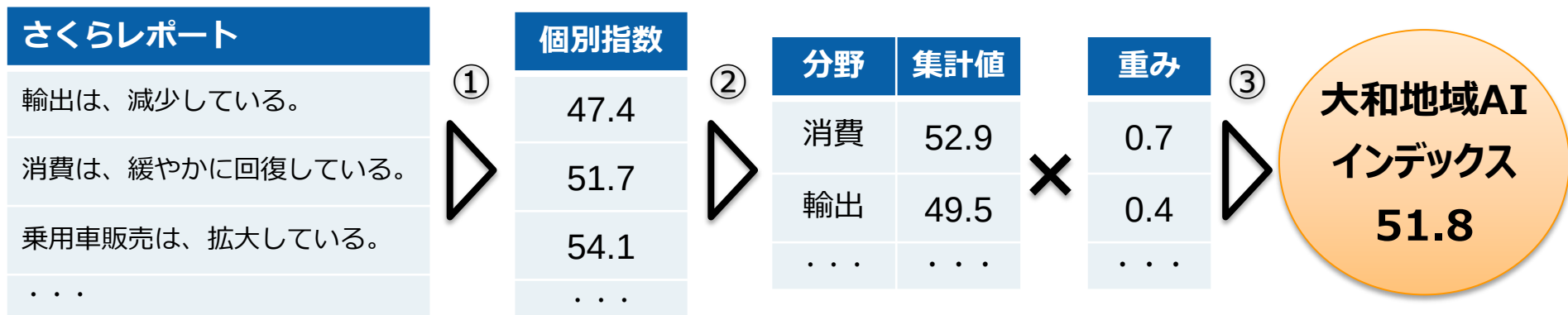
※大和地域AIインデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AIモデル**で指数化。

AIモデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。

作成イメージ



① 景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから
テキストと景気動向の関係性を学習*

景気判断	景気判断の理由
○	...客単価が上がってきている

⇒ “○”だから「客単価が上がる」はポジティブな表現

② 文章の内容から、言及している分野を識別
Ex. 「消費」「設備投資」「生産」など
↓
分野別に指数の集計値を算出

③ 景況判断とマッチするように
分野別の重みを推定
↓
重み付け集計により
最終的な指数を算出

*参考文献：山本裕樹、松尾豊（2016）「景気ウォッチャー調査の深層学習を用いた金融レポートの指数化」2016年度人工知能学会全国大会
<<http://www.ai-gakkai.or.jp/jsai2016/webprogram/2016/pdf/219.pdf>>

日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.4以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成